

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	佐賀コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人佐賀コンピュータ学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数	省令で定める 基準単位数	配 置 困 難
工業専門課程	情報処理システム科 情報システムコース	夜・ 通信	7 単位 (6 単位)	7 単位 (6 単位)	
	情報処理システム科 情報デザインコース	夜・ 通信	7 単位 (6 単位)	7 単位 (6 単位)	
	情報処理研究科	夜・ 通信	4 単位 (3 単位)	4 単位 (3 単位)	
商業実務専門課程	情報処理技術科	夜・ 通信	4 単位 (3 単位)	4 単位 (3 単位)	
(備考) 学校教育法の改正に伴い、() 内の数字は改正前の授業時数を記載している					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「令和8年度シラバス」内にて掲載、学校書架にて公表

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2－②を用いること。

学校名	佐賀コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人佐賀コンピュータ学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「佐賀コンピュータ学院役員名簿」を事務室備え付けにて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	佐賀県ヤクルト販売(株) 営業第 2 課 課長	2026. 5 ～2030. 5	コンプライアンス
非常勤	(有)川代テント工業 社 長	2026. 5 ～2030. 5	企画・調整
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佐賀コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人佐賀コンピュータ学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・各授業科目担当職員にて、授業毎の進捗を計画し、年間もしくは半期のシラバスを3月までに作成する。 ・作成時期：新年度開始前(3月) ・公表時期：新年度開始時(4月)	
授業計画書の公表方法	「令和8年度シラバス」を学校書架にて公表
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) ・前期、後期の定期試験を行い、評価点を算出する。 ・実習中心の科目については、実習レポート提出で定期試験に変わる評価点を算出する場合がある。 ・授業の出席が8割以上を及第点とし、評価に入れる。(出席が8割に満たない者は、補習を行う事が出来るものとする) ・レポート提出がある場合は、提出物を評価に入れる。提出は必須とする。 ・以上の定期試験、出席、レポート提出等を総合的に評価し、最終的に評価点を算出する。 ・評価点は以下の通りの基準とする。 100～85：優、84～70：良、69～60：可、59～0：不可 ・総合評価点の60点以上に対して、単位を与えるものとする。											
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。											
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA制度について GPA(Grade Point Average)制度は、大学等が採用している制度であり、グローバル化時代における国際的な成績評価システムとして、本校でも2019年度より導入している。 本校のGPAは、履修登録した科目毎の4段階評価(優・良・可・不可)を4から0までのGP(Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和であるGPT(Grade Point Total)を履修登録単位数の合計で割った平均点となります。 GPA(Grade Point Average)=GPT(Grade Point Total)/履修登録単位数 GPT(Grade Point Total)=[GP(Grade Point)×当該科目の単位数]の総和 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>GP(Grade Point)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td><td>4</td></tr> <tr> <td>良</td><td>3</td></tr> <tr> <td>可</td><td>2</td></tr> <tr> <td>不可</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>		評価	GP(Grade Point)	優	4	良	3	可	2	不可	0
評価	GP(Grade Point)										
優	4										
良	3										
可	2										
不可	0										
客観的な指標の算出方法の公表方法	「成績評価について」を学校書架にて公表										
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。											

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ○社会人・職業人としてふさわしい行動・倫理観を持ち、かつ、情報処理の技術を実務レベルで習得し発揮できる、もしくはそれに準ずる資格を有した者。 ○在学中に各在学コースにて、本校所定の単位を修得し、学費を完納した者。 ○在学中の最終定期試験の後実施される卒業判定会議にて、各学生の成績・単位の取得状況・出席状況・学費納金状況を精査し、卒業認定を行う。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	「卒業認定について」を学校書架にて公表

様式第 2 号の 4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第 2 号の 4－①を用いること。

学校名	佐賀コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人佐賀コンピュータ学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	令和 7 年度貸借対照表を事務所備え付け
収支計算書又は損益計算書	令和 7 年度収支計算書を事務所備え付け
財産目録	令和 7 年度財産目録を事務所備え付け
事業報告書	令和 7 年度事業報告を事務所備え付け
監事による監査報告（書）	令和 7 年度監査報告書を事務所備え付け

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理システム科 情報システムコース		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数		開設している授業の種類				
	講義			演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	6 2		4 6		1 6		
	62							
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
100 人		69 人	0 人	3 人		4 人		7 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・各授業担当職員にて、授業毎の進捗を計画し、年間もしくは半期のシラバスを作成し実施する。 ・公表時期：新年度開始時（4 月）
成績評価の基準・方法
（概要） ・前期・後期の定期試験を行い、評価点を算出する。 ・実習中心の科目については、実習レポートの提出で定期試験に変わる評価点を算出する場合がある。 ・授業の出席が 8 割以上を及第点とし、評価にいれる。（出席が 8 割に満たない者は、補習を行い事ができるものとする。） ・レポート提出がある場合は、提出物を評価に入れる。提出は必須とする。 ・以上の定期試験、出席、レポート提出等を総合的に評価し、最終的に評価点を算出する。 評価点は以下の通りの基準とする。 100～85：優、84～70：良、69～60：可、59～0：不可 ・総合評価点の 60 点以上に対して、単位を与えるものとする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 該当年度の学費を完納し、取得すべき科目の単位が認定された場合進級・卒業を認める。
学修支援等
(概要) 単位取得が出来ていない場合など、補習や学習サポート、課題サポートを行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
45 人 (100%)	1 人 (2.2%)	36 人 (80%)	8 人 (17.8%)
(主な就職、業界等) IT 業界(44%)、製造・建設業界(19%)、小売・サービス業界(33%)へ就職し IT 関連技術・事務職(97%)、非関連(技能、販売・営業等 3%)に従事している。			
(就職指導内容) 業界の知見を深める講座(業界研究など)、ヒューマンスキルアップセミナー(就職応援セミナー等)、カウンセリング関連(個別面談・進路希望調査など)を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 資格検定試験において、1 人平均 5 個程度の資格取得が出来た(情報処理技術者認定試験、等)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81 人	6 人	7.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更や体調不良等のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談の実施、家庭への積極的な連絡を行い連携を図る。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報処理システム科 情報デザインコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	6 2	4 5		1 7		
			62				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		27 人	0 人	3 人	6 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・各授業担当職員にて、授業毎の進捗を計画し、年間もしくは半期のシラバスを作成し実施する。 ・公表時期：新年度開始時（4月）	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・前期・後期の定期試験を行い、評価点を算出する。 ・実習中心の科目については、実習レポートの提出で定期試験に変わる評価点を算出する場合がある。 ・授業の出席が8割以上を及第点とし、評価にいれる。（出席が8割に満たない者は、補習を行い事ができるものとする。） ・レポート提出がある場合は、提出物を評価に入れる。提出は必須とする。 ・以上の定期試験、出席、レポート提出等を総合的に評価し、最終的に評価点を算出する。 評価点は以下の通りの基準とする。 100～85：優、84～70：良、69～60：可、59～0：不可 ・総合評価点の60点以上に対して、単位を与えるものとする。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 該当年度の学費を完納し、取得すべき科目の単位が認定された場合進級・卒業を認める。	
学修支援等	
（概要） 単位取得が出来ていない場合など、補習や学修サポート、課題サポートを行う。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	15人 (88.2%)	2人 (11.8%)

(主な就職、業界等) IT 業界(13%)、製造・印刷業界(33%)、小売・サービス業界(47%)へ就職し、IT 関連技術・事務職(93%)、非関連(販売・営業、その他等 7%)に従事している。
(就職指導内容) 業界の知見を深める講座(業界研究など)、ヒューマンスキルアップセミナー(就職応援セミナーなど)、カウンセリング関連(個別面談、進路希望調査など)を実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 二科展・佐賀県展をはじめ多数の公募展などの出品において入選・入賞。 また、デザイン系ソフトの技術検定の受験・取得が出来た。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	2 人	7.7%
(中途退学の主な理由) 体調不良や進路変更のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談の実施、家庭への積極的な連絡を行い連携を図る。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	情報処理技術科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	3 1	0		0		
			0				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・各授業担当職員にて、授業毎の進捗を計画し、年間もしくは半期のシラバスを作成し実施する。 ・公表時期：新年度開始時（4 月）	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・前期・後期の定期試験を行い、評価点を算出する。 ・実習中心の科目については、実習レポートの提出で定期試験に変わる評価点を算出する場合がある。 ・授業の出席が 8 割以上を及第点とし、評価にいれる。（出席が 8 割に満たない者は、補習を行い事ができるものとする。） ・レポート提出がある場合は、提出物を評価に入れる。提出は必須とする。 ・以上の定期試験、出席、レポート提出等を総合的に評価し、最終的に評価点を算出する。 評価点は以下の通りの基準とする。 100～85：優、84～70：良、69～60：可、59～0：不可 ・総合評価点の 60 点以上に対して、単位を与えるものとする。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 該当年度の学費を完納し、取得すべき科目の単位が認定された場合進級・卒業を認める。	
学修支援等	
（概要） 単位取得が出来ていない場合など、補習や学修サポート、課題サポートを行う。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (0%)	2 人 (100%)	0 人 (0%)

(主な就職、業界等) 製造（アウトソーシング）業界（100％）へ就職し、販売・営業・その他（100％）に従事している。
(就職指導内容) 業界の知見を深める講座(業界研究など)、ヒューマンスキルアップセミナー(就職応援セミナーなど)、カウンセリング関連(個別面談、進路希望調査など)を実施している。
(主な学修成果（資格・検定等）) ワープロ検定を取得出来た
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談の実施、家庭への積極的な連絡を行い連携を図る。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		工業専門課程	情報処理研究科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	3 1	0		0			
			0					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・各授業担当職員にて、授業毎の進捗を計画し、年間もしくは半期のシラバスを作成し実施する。 ・公表時期：新年度開始時（4 月）	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・前期・後期の定期試験を行い、評価点を算出する。 ・実習中心の科目については、実習レポートの提出で定期試験に変わる評価点を算出する場合がある。 ・授業の出席が 8 割以上を及第点とし、評価にいれる。（出席が 8 割に満たない者は、補習を行い事ができるものとする。） ・レポート提出がある場合は、提出物を評価に入れる。提出は必須とする。 ・以上の定期試験、出席、レポート提出等を総合的に評価し、最終的に評価点を算出する。 評価点は以下の通りの基準とする。 100～85：優、84～70：良、69～60：可、59～0：不可 ・総合評価点の 60 点以上に対して、単位を与えるものとする。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 該当年度の学費を完納し、取得すべき科目の単位が認定された場合進級・卒業を認める。	
学修支援等	
（概要） 単位取得が出来ていない場合など、補習や学修サポート、課題サポートを行う。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） IT 業界へ就職(直近年度は該当なし)			

(就職指導内容) 業界の知見を深める講座(業界研究など)、ヒューマンスキルアップセミナー(就職応援セミナーなど)、カウンセリング関連(個別面談、進路希望調査など)を実施している。(直近年度は該当なし)
(主な学修成果(資格・検定等)) 情報系資格検定試験の受験・取得が出来た。(情報処理技術者能力認定試験、等)(直近年度は該当なし)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による面談の実施、家庭への積極的な連絡を行い連携を図る。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
情報処理 システム 科情報シ ステムコ ース	150,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費・設備維持費
情報処理 システム 科情報デ ザインコ ース	150,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費・設備維持費
情報処理 技術科	150,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費・設備維持費
情報処理 研究科	150,000 円	480,000 円	280,000 円	実習費・設備維持費
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sagascc.ac.jp/contact/koukai.html		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 高等学校教育経験者 1 名程度、分野企業関係者 1 名程度、卒業生 2 名程度により構成する。 自己評価を踏まえつつ、評価委員により授業内容・進路状況・学内指導状況・学校運営状況を評価、現状の共有・改善点の洗い出しを行い、委員よりの意見を集約し、学校長を責任者と位置付け、学校運営の改善に活用する。 学校長を中心に次期へ向けた指摘事項の改善を図る。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
元龍谷高等学校教諭	2026. 2～2030. 1	高等学校教諭経験者
誠文堂印刷株式会社 社長	2026. 2～2030. 1	分野企業関係者
県内医療系企業	2026. 2～2030. 1	卒業生
県内流通系企業	2026. 2～2030. 1	卒業生
第三者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 「令和7年度学校関係者評価」を学校書架にて公表。
(備考)
・表中の各項目には学校関係者評価に関する情報を記載する。 ・第三者評価については未実施。

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://sagascc.ac.jp/contact/koukai.html
--